

「大阪市ワーク・ライフ・バランス推進月間」

大阪市では、女性の活躍を応援するさまざまな団体とともに、8月を「大阪市ワーク・ライフ・バランス推進月間」として集中的に取り組を進めています。

女性がさまざまな分野においてその能力を最大限に発揮し活躍するとともに、男性も家庭や地域生活などにおいて活躍し役割を果たしていくためには、長時間労働等の働き方の改革、女性が働きやすい職場づくり、男性の家事・育児・介護・地域活動等への参加の促進を図るなど、「やりがいを感じながら働く時間」と「家族とともに過ごす時間」と「自分自身の趣味や地域活動を楽しむ時間」の調和が大切です。

8月の推進月間中には、余暇を楽しめるイベントが多数開催されます。働き方を見直すとともに、余暇を有意義に過ごしましょう。



＜イベント案内＞

■朝日新聞社の創業者・村山龍平の 企業家精神と“美”への想い

日時 8/28(火) 15:30～16:45
場所 大阪企業家ミュージアム
定員 先着80人
問合せ 大阪企業家ミュージアム
☎(4964-7601)

■しごと×子育て「スキルアップサロン」 「夫に伝わる話し方～よりよい夫婦関係のために」

(詳細はP16)

■人権絵本原画展「たこ、たこ、あがれ」

期間 8/13(月)～20(月)
場所 問合せ 難波市民学習センター ☎(6643-7010)

◆主催：大阪市

◆共催：一般財団法人大阪市男女共同参画のまち創生協会、大阪市女性起業家情報交流協会、大阪市地域女性団体協議会、大阪市PTA協議会、大阪商工会議所、大阪労働局、公益財団法人21世紀職業財団関西事務所、公益社団法人関西経済連合会、公立大学法人大阪市立大学、特定非営利活動法人大阪NPOセンター、日本労働組合総連合会大阪府連合会（大阪女性きらめき応援会議構成団体、五十音順）



仕事 × 家庭 × 私 = 笑顔ある暮らし

大阪市ワーク・ライフ・バランス推進月間



おおさか歴史探訪 126

大阪の史跡や歴史資料を毎月連続でご紹介します。

伝藤原家隆墓 —「夕陽丘」の地名の由来—

天王寺区に「夕陽丘」という地名があります。現在は四天王寺の北西部の一区画のみをいいますが、もともとは四天王寺から生國魂神社にいたる広い地域の総称とされていました。この地は上町台地の西端にあたり、その西側は急斜面の崖状の地形となっているため、かつては大阪湾や遠くには淡路島を一望できる景勝の地でした。

この地から眺める夕陽が美しかったことから、四天王寺の西門を中心として、平安時代中頃から、極楽浄土を願う浄土信仰が盛んとなりました。そのための修行として「日想観」がありますが、これは西に沈む夕日を見ながら念仏を唱え極楽浄土を祈るといふ修行です。

藤原家隆(1158～1237)は鎌倉時代初期の有名な歌人で、『新古今和歌集』などの撰者としても知られています。従二位宮内卿という高い地位にありましたが、病のためにこれを辞して出家し、嘉禎2(1236)年、夕陽丘の地に草庵「夕陽庵」を結んで日想観の修行をおこないました。家隆は翌年亡くなり、草庵のあったところに祀られたといわれています。その場所と伝えられるところには塚状の高まりがあり、五輪塔と石碑が建っています。亡くなる直前に詠んだといわれている「契りあれば難波の里にやどりきて波の入日をおがみつる哉」は有名です。

江戸時代後期の名所案内である『摂津名所図会』や、明治時代の地誌である『大日本地名辞書』に、「夕陽丘」の地名の由来は、家隆がこの地に住み、日想観をもとにした歌を詠んだことによる、ということが記されています。



伝藤原家隆墓にある五輪塔
(天王寺区夕陽丘町5)

(大阪市教育委員会 文化財保護課)